

美作国創生公募提案事業 事業成果報告書

1 事業名:美作国「美咲森芸2024」～美咲の森を子どもたちにつなげよう～

2 実施団体:美咲芸術世界実行委員会

3 担当課:地域づくり推進課

4 事業概要

2024年、岡山県北で開催された「森の芸術祭 晴れの国・岡山」を契機とし、美咲町の文化芸術祭「美咲森芸2024」を開催した。町内の文化的なつながりを育み、町の文化を盛り上げることを目的として、町内の文化芸術、農林業、教育、福祉などさまざまな分野の団体が連携して町内にぎわいを創出し、地域資源を活かした文化芸術振興に資する地域づくりに貢献することができた。

また、現在町の課題となっている文化財の保護やふるさとの環境保全について、新しい世代が注目しているアートという視点から改めて見つめ直し、町の文化芸術を未来の子どもたちにつなげたいという想いを込め、テーマを「美咲の森をこどもたちにつなげよう」とし、課題解決の糸口を探った。

5 実施内容

<準備期間プログラム>

① 美作国美咲森芸旅マップ作り【5月～7月：ミサキアエル】

美咲森芸2024実行委員会が結成され、メンバーで話し合いを重ね、企画案に沿ってマップ作りを行った。(参加者数46人)

② 竹内流古武道史跡マップ作り【5月～7月：三宮神社】

竹内流古武道史跡保存会が結成され、メンバーで史跡の調査研究を重ね、マップ作りを行った。(参加者数40人)

③ 元祖美咲桃太郎伝説のぼり旗作りワークショップ【8/8(木)：中央児童館】

美咲桃太郎の会のメンバーがスタッフとなり、元祖美咲桃太郎伝説のキャラクターの下絵を施したのぼり旗に、中央地域の子どもたちが絵具で色を付けた。(参加者数81人)

④ シルクスクリーン体験ワークショップ【9/7(土)：アートとヨガの楽園キッサコ】

美咲桃太郎の会、オオハガ座芸農倶楽部、美咲芸術世界の各団体のロゴやキャラク

ターを施したシルクスクリーンを使い、オリジナルTシャツを作成した。(参加者数 10 人)

⑤ アマンジャク演劇ワークショップ【10/25 (金): 大埴和ふれあいプラザ】

演出家大西千夏の指揮のもと、ダンサー小山麻衣子と地域住民がジャンベ奏者の音楽に合わせ、演劇ワークショップを行った。(参加者数 12 人)

⑥ 大埴和西棚田はざかけアートワークショップ【10/5 (土): 大埴和西棚田】

造形作家柏木弘明の指揮のもと、地域住民と地元農家、町外参加者が共創し、大埴和西棚田にはざかけアートを完成させた。(参加者数 30 人)

<開催期間プログラム>

① 美咲森芸 2024 オープニングイベント【9/29 (日): 生涯学習センター】

開催式典では、竹内流古武道の演武を行った。ステージイベントとしては、元祖美咲桃太郎伝説大型ロール紙芝居の上演、昔話アマンジャク劇の一部プレ上演を行った。その他、各参加団体が PR ブースを設け、作品展示やプログラムの紹介を行った。また、ノートルダム清心女子大学学生が担当したキッズスペースの設置や、域おこし協力隊によるヒノキの端材アートワークショップも行った。(参加者数 220 人)

② 「目の見えない白鳥さんアートを見に行く」映画上映会【10/12 (土): 生涯学習センター】

午前・午後 2 回の映画上映と、監督川内有緒を招聘してのトークショーを行った。その他、手織りコースター制作ワークショップ、手話コミュニケーションワークショップ、写真展示、キッズスペースも設置。社会福祉協議会主催の「みんなで食堂」とも連携した。(参加者数 85 人)

③ たまごまつりアートガイド【10/20 (日): 亀甲商店街】

久米郡商工会主催の「たまごまつり」と連携し、ミサキアエルを拠点として情報コーナーを県立大学学生、アートガイドを美作大学学生が務め、「たまごまつり」来場者に亀甲駅前作品など、商店街周辺のアート作品を紹介した。(参加者数 65 人)

④ アマンジャク舞台公演【10/26 (土): 一宮八幡神社】

岡山県指定重要文化財である歌舞伎舞台で、昔話アマンジャク劇の舞台公演を行った。その他、音楽ライブ、美咲森芸マルシェも行った。午前中には、オオハガ座芸農倶楽部のメンバーがスタッフとなり、二上山散策とアマンジャク史跡ツアーも行った。(参加者数 137 人)

⑤ 北和気郷土資料館 美咲森芸 2024 展【9/12 (木) ~ 11/17 (日): 北和気郷土資料館】

会期中、さおり織展、藍染め展、切り紙展、刻字展を行った。(参加者数 765 人)

⑥ やなはら文化祭 美咲森芸 2024 展【11/1 (金) ~ 11/3 (日): 柵原文化センター】

「やなはら文化祭」と連携し、展示スペースの一部に仮面作家岩本雄基の作品展示を行った。(参加者数 870 人)

⑦ 旭文化協会ふれあいまつり 美咲森芸 2024 展【11/2 (金) ~ 11/3 (日): 旭町民センター】

「旭文化協会ふれあいまつり」と連携し、展示スペースの一部に仮面作家岩本雄基の作品展示を行った。(参加者数 200 人)

⑧ 柵原図書館 美咲森芸 2024 展【11/9 (金) ~ 11/24 (日): 柵原図書館】

美咲町柵原地域出身の現代アーティスト福井一尊と柵原地域の保育園児たちのコラボレーション作品を展示した。(参加者数 148 人)

⑨ 竹内流古武道史跡巡り【11/16 (土): 三宮神社】

竹内流古武道史跡保存会による三宮神社でのトークイベントと、史跡マップをもとに一ノ瀬城跡、竹内流古武道発祥の地を巡った。その他、旭の子どもたちによる地元小山の棚田米おにぎり販売も行った。事前に史跡看板の設置を行った。(参加者数 65 人)

⑩ 美咲郷土かるた大会【11/17 (日): 生涯学習センター】

美咲郷土かるたを活かす会のメンバーがスタッフとなり、かるた大会を行った。その他、美咲郷土かるたマップの展示を行った。(参加者数 50 人)

⑪ 岸田吟香 & ジョセフ・ヒコ展【11/23 (土) ~ 11/24 (日): 旭文化会館】

岸田吟香を語り継ぐ会主催のトークイベントと岸田吟香にゆかりのある画家布下満、高木巧治寄贈作品を展示した。旭地域の子どもたちと美作大学学生による発表会も行った。(参加者数 330 人)

<アートポイント>

① 亀甲駅前 (来場者数約 1,200 人: 月平均約 600 人が利用): 画家翔一朗が駅前巨大パネルに亀をモチーフにした作品を展示した。

② ふれあい亀太郎ロビー (来場者数約 24 名: 月平均約 12 人が利用): 美咲芸術世界 2016 制作の画家小林悦子の作品展示。

③ 黄福広場 (来場者数約 6,200 人: 月平均約 3,100 人が利用): 美咲芸術世界 2016 ~ 2019 制作の画家ラデックプレディゲル他、複数の作品展示。

④ 鬼山城跡 (来場者数約 100 人: 月平均約 50 人が来訪): 美咲芸術世界 2018 制作の画家楽画鬼の作品展示。

⑤ 大坪和西棚田 (来場者数 100 人: 月平均約 50 人が来訪): 造形作家柏木弘明の指揮によるはざかけアート作品を展示した。

※活動写真は別添（美咲森芸2024記録集）の通り

6 事業実施による成果、効果、今後の課題

（1）成果、効果

＜事業効果＞

◎町民への周知・啓発

地域の文化資源の保全・継承について町民全体で考えていくためには、まずそれを知ることが必要である。文化資源の案内看板や史跡マップ制作、展示会や舞台公演等イベントの開催により、町民に対する周知・啓発に貢献した。

◎子どもたちとの共創

町内小学校や保育園との連携により、美咲森芸 2024 の「美咲の森を子どもたちにつなげよう」というテーマに沿って、文化発表会などの場で地域の文化資源を取りあげるなどの効果が出た。それは地域の大人たちにも波及し、史跡の荒廃、担い手不足、環境保全などに対する意識の高まりや、持続可能な社会を目指す機運の醸成につながった。

◎地域住民による町内施設の活用促進

新しく開かれた公共施設である美咲町生涯学習センターで、地域住民と様々な団体がイベントを共創し、アート展示、映画上映、ワークショップ、飲食出店など、施設の多様な使い方を示したことは住民による公共施設の活用促進につながった。また、コロナ禍で自粛に迫いやられた文化芸術事業や各種行事の必要性や意義を問い直し、町ににぎわいと元気を取り戻すことに貢献できた。

◎町内の文化的つながりや一体感の醸成

実行委員会の立ち上げ以降、月 1 回のペースで実行委員会を実施。ライングループやインスタグラムを活用して、関係者全員で情報を共有しながら進めてきたため、一体感が生まれた。

＜事業実施状況＞

◎来場者数：約 12,944 人（参加者数を含めた総数）

- ・各種プログラム来場者数：事業参加者数を含め合計 3,146 人
- ・アートポイント 5 か所：来場者数合計約 7,600 人
- ・関連事業（みんなで食堂、たまごまつり、桃太郎 EXPO）：来場者数合計約 2,190 人

◎目標来場者数 1 万人を達成

町や関係団体と協力体制を組んで広報にあたり、町内で開催されるイベントでの展示やチラシ配布など、地道な活動の成果と考えられる。また、町内の様々な団体に

関連イベントや出店をお願いしたことで、関係者の参加数も多く、参加者と一緒に
つくりあげる芸術祭となった。

(2) 今後の課題

<事業実施後の課題>

◎町外からの参加・来場者数の伸び悩み

「森の芸術祭 晴れの国・岡山」実行委員会や関係者との連携体制が取れておらず、「森の芸術祭」の関連事業としてはメディアに取り上げられることが少なく、町外への効果的な周知ができなかった。連携としては FRIENDS PROGRAM の登録のみであった。

7 県民局と連携した効果及び課題

◎周辺地域との連携、美作国美咲町の旅プランの提案

美作圏域のアーティスト参加や、県北からの来場者はあったが、旅プランの積極的な提案・宣伝までには至らなかった。中山間地域での実施においては、交通の便や駐車場の確保、地域住民への周知など課題が残った。

美咲森芸2024記録集

～美咲の森をこどもたちにつなげよう～

開催期間:2024年9月29日(日)～11月24日(日)



美咲森芸2024 記録集
発行: 美咲森芸2024実行委員会
編集: 美咲森芸2024実行委員会・美咲芸術世界実行委員会事務局
〒709-3726岡山県久米郡美咲町大埸和西1024-7
デザイン: 芦原哲也 (TERRA DESIGN)
印刷: 株式会社 一広



MISAKI.MORIGEI



森の芸術祭
FRIENDS PROGRAM

はじめにP2

美咲森芸オーブニングイベントP3

映画上映会『目の見えない白鳥さん、アートを见にいく』P4

たまごまつりアートガイドP5

昔話アマンジャク舞台公演、美咲郷土かるた大会P6

柗原・旭・中央地域的美咲森芸展P7

竹内流古武道史跡巡り、岸田吟香&ジョセフ・ヒコ展P8

森の芸術祭 晴れの国・岡山とは？、美咲森芸2024の成果P9

おわりにP10



2024年9月28日から11月24日までの約2ヶ月間、岡山県の事業として「森の芸術祭 晴れの国・岡山」が県北12市町村で開催され、美咲町では「美咲森芸2024」を開催することができました。

約1年前から声を掛け合い、団体有志による「美咲森芸2024実行委員会」を立ち上げ、「さあ、やるぞ！」とみんなで声を上げて始めました。毎月開催されたミサキアエルでのスタッフミーティングでは町内3エリアそれぞれの特色のある文化芸術情報を持ち寄り、1つのリーフレットにまとめあげる作業を進めました。

活動の目的と我々のミッションは次の3つ。

- ①町内の文化的なつながりを育み、様々な関連団体が連携して賑わいを創出し、地域資源を活かしたさらなる芸術文化振興を図ること。
- ②文化芸術を町内外に発信することで文化財の保護・環境保全・交流人口の増加等を図ること。
- ③芸術という視点から地域文化を改めて見つめ直し、町の文化芸術を未来の子どもたちにつなぐこと。

実際にオーブニング、エンディング会場をはじめ、アート作品制作過程や作品展示・発表において、子どもたちの生き生きとした表情は一番の輝きであり、地域の未来に光を与えてくれる自然の芸術作品だったように感じています。

無事に会期を終えてみると、延べ参加・来場者数約12,944人と大きな反響をいただいたことに感謝しかありません。そして、町民有志手作りの心の込められたそれぞれの企画では、参加者様の笑顔が我々のメッセージの確実な受け取りを証明してくれていたように思います。

私自身、地域に新たな発見がたくさんあり、さながら「美咲探検ツアー」に参加したようなワクワク感でいっぱい企画でした。また俯瞰してみると、私たちの地域について「語れること」を持っていること自体、実はとても幸せなことのように感じます。地域の歴史や文化は無意識の内に我々自身のアイデンティティを構成する一部になっているはずですが、今回の美咲森芸でいただいた人間的なつながり（ご縁）を、これからの地域文化芸術の振興と共にさらに大きくたくましく育ていきたいものです。

最後に、この美咲森芸2024に関わってくださった数多くの皆様に心よりお礼を申し上げます。

美咲森芸2024実行委員会 委員長 矢木公久



美咲森芸 2024 オープニングイベント

- 開催場所：みさきラリ美咲町生涯学習センター美咲町中央公民館
(美咲町原田3100-1)
- 開催日時：2024年9月29日(日) 11時～15時

〈プログラム〉

開催式典では、竹内流古武道演武を行った。ステージイベントでは、元相美咲桃太郎伝説大型ロール紙芝居の上演、昔話「アマンジャク」の一部ブレ上演を行った。その他、各参加団体がPRブースを設け、作品展示や会期中のプログラムの紹介を行った。(参加者数 220 人)



開催式典で披露された竹内流古武道演武



元相美咲桃太郎伝説大型ロール紙芝居の上演



昔話「アマンジャク」の一部ブレ上演

美咲森芸ワークショップ



8月
8日(木)
中央児童館

元相美咲桃太郎伝説のぼり旗作りワークショップ：
美咲桃太郎の会のメンバーがスタッフとなり、元相美咲桃太郎伝説のキャラクターの下絵を施したのぼり旗に、中央地域の子どもたちが絵具で色を付けた。(参加者数 81 人)



9月
7日(土)
アートとヨガの楽園
キャサコ

シルクスクリーン体験ワークショップ：
美咲桃太郎の会、オオハガ座芝居倶楽部、美咲芸術世界の各団体のロゴやキャラクターを施したシルクスクリーンを使い、 オリジナルT シャツを作成した。(参加者数 10 人)



9月
29日(日)
中央公民館

ヒノキの端材アートワークショップ：
地域おこし協力隊 with 大坪和みどりの少年隊の企画で、製材所から出るヒノキの端材を使用したアートワークショップをオープンニングイベント会場で行った。(参加者数 30 人)

映画上映会 『目の見えない白鳥さん、アートを見に行く』

- 開催場所：みさきラリ美咲町生涯学習センター美咲町中央公民館
(美咲町原田3100-1)
- 開催日時：2024年10月12日(日) 9時30分～16時

〈プログラム〉

午前・午後2回の映画上映と、川内有緒監督を招聘してのトークショーを行った。その他、手織りコースター制作ワークショップ、手話コミュニケーションワークショップ、写真展示、キッズスペースも設置。社会福祉協議会主催の「みんなで食堂」とも連携した。(参加者数 85 人)



川内有緒監督を招聘してのトークショー



社会福祉協議会主催の「みんなで食堂」と同時開催



あなぐま舎企画のモニターを使用したスライドショー

美咲森芸ワークショップ



10月
12日(土)
中央公民館

手織りコースター制作ワークショップ：
あなぐま舎主催の手織りコースター制作講座を映画上映会会場で開催した。(参加者数 8 人)



10月
12日(土)
中央公民館

手話コミュニケーションワークショップ：
社会福祉協議会と連携し、簡単な手話コミュニケーション講座を映画上映会会場で開催した。(参加者数 7 人)



10月
12日(土)
中央公民館

中央図書館 読書バリアフリー機器の紹介：
中央図書館と映画上映会のコラボ企画で、中央図書館に設置された読書バリアフリー機器の紹介を来場者向けに行った。(参加者数 8 人)



映画チラシ

Ario Kawauchi 川内有緒



プロフィール：
アメリカ、南米、フランス、日本を転々としながら、12 年間に、フリーランスの物書きに。東京を拠点に評伝、旅行記、エッセイなどを執筆。1167ルを探して 地球の片隅に伝わる秘宝の謎で新田次郎文学賞、「空をゆく巨人」で開高健ノンフィクション賞、「目の見えない白鳥さんとアートを見に行く」で Yahoo! ニュース | 本屋大賞 ノンフィクション 本大賞を受賞。

学賞、「空をゆく巨人」で開高健ノンフィクション賞、「目の見えない白鳥さんとアートを見に行く」で Yahoo! ニュース | 本屋大賞 ノンフィクション 本大賞を受賞。



〈Yahoo! ニュース〉
本屋大賞 ノンフィクション本大賞を受賞

たまごまつりアートガイド

- 開催場所：ミサキアエル（美咲町原田1722）
- 開催日時：2024年10月20日（日）11時～15時

（プログラム）

久米郡商工会主催の「たまごまつり」と連携し、ミサキアエルを拠点として情報コーナーを岡山県立大学の学生、アートガイドを美作大学の学生が担当し、「たまごまつり」来場者に亀甲駅前の作品など、商店街周辺のアート作品を紹介した。（参加者数 65 人）



ミサキアエルに情報コーナーを設置



- Art 2 ふれあい亀太郎ロビー**（美咲町原田1723-1）
画家小林悦子の美咲芸術世界 2016 制作作品の展示。（会期中来場者数約 24 人）



- Art 4 鬼山城跡**（美咲町打穴中2209）
画家梁面鬼の美咲芸術世界 2018 制作作品の展示。（会期中来場者数約 100 人）

美咲森芸ワークショップ

10月
5-6・7日（土・日）
大井和西棚田



- 大井和西棚田はざかけアートワークショップ：**
造形作家柏木弘明の指揮のもと、地域住民と地元農家、町外参加者が共創し、大井和西棚田にはざかけアートを完成させた。（参加者数 30 人）



ミサキアエル



- Art 1 亀甲駅前**（美咲町原田1745-5）

画家翔一朗が駅前巨大パネルに亀をモチーフにした作品を展示した。（会期中来場者数約1,200人）



- Art 3 黄福広場・あいのす**（美咲町原田2155）
画家ラデックブレディゲル他、美咲芸術世界 2016 ～ 2019 制作作品の展示。（会期中来場者数約 6,200 人）



- Art 5 大井和西棚田**（美咲町大井和西棚田公園付近）
造形作家柏木弘明の指揮によるはざかけアート作品を展示した。（会期中来場者数約 100 人）

昔話アマンジャク舞台公演

- 開催場所：一宮八幡神社（美咲町大井和西238）
- 開催日時：2024年10月26日（土）11時～14時

（プログラム）

岡山県指定重要文化財である一宮八幡神社の歌舞伎舞台で、昔話アマンジャクの舞台公演を行った。その他、音楽ライブ、美咲森芸マルシェも行った。午前中には、オオハガ座芸倶楽部のメンバーがスタッフとなり、二上山散策とアマンジャク史跡ツアーも行った。（参加者数 137 人）



美咲郷土かるた大会

- 開催場所：美咲町立中央図書館（美咲町原田3100-1）
- 開催日時：2024年11月17日（日）13時～16時

（プログラム）

美咲郷土かるたを活かす会のメンバーがスタッフとなり、かるたの大会を行った。その他、美咲郷土かるたマップの展示を行った。（参加者数 50 人）



美咲森芸ワークショップ

10月
25日（金）
大井和ふれあいプラザ



- アマンジャク演劇ワークショップ：**
演出家大西千夏の指揮のもと、ダンサー・小山麻衣子と地域住民がアフリカンジャンベ奏者の音楽に合わせ、演劇ワークショップを行った。（参加者数 12 人）

二上山散策とアマンジャク史跡ツアーワークショップ：
昔話アマンジャク舞台公演に合わせ、舞台公演当日の午前中にはオオハガ座芸倶楽部のメンバーがスタッフとなり、二上山散策とアマンジャク史跡ツアーを行った。（参加者数 17 人）



一宮八幡神社（歌舞伎舞台）

Chika Onishi
大西千夏



プロフィール：
岡山県出身。岡山を中心に多くの舞台に俳優として出演。脚本、演出、音楽も手掛ける。主演の声を務めたアニメ映画でフィナンランドのタンベレ国際映画祭に参加。瀬戸内アマチュア人形劇団と創作した「一通上人物語」は岡山県代表として中国四国芝居行で発表。美咲芸術世界 2017「アマンジャク」舞台公演では演出と主演を務め、2018 年バロ公演では演出と主演、オリンピック・パラリンピックの公認文化オリンピアン「東京キャラバン」（総監督：野田秀樹）に岡山アーティストとして参加。

Maiko Koyama
小山麻衣子



プロフィール：
高校ダンス部でストリートダンスを踊り始める。2005 年岡山県体開会式のパフォーマンスでアフリカンダンスを踊り、どハマりしてしまう。2007 年から 6 回ダンス修行でギニア共和国へ渡航。モハメド・バンゲラ師のジャバツァーにダンサーとして所属。日本各地、中国、フランスなどでパフォーマンスというジャンルを覚悟を持ってダンスと音楽が好きというジャンルが覚悟を持って練習させるスタイルで様々なジャンルのバリエーションを重ねている。

Skat☆Linda
スカット☆リンダ



プロフィール：
アーティスト・ダヤブテ・ヨガ講師。2002 年渡仏、パリを拠点にアート活動を経て 2011 年に岡山・美咲町の聖地「オオハガ」に移住。山の上的ギャラリー「アートとヨガの楽園キッサコ」をオープン。地球の子・宇宙の子・オオハガの子として、この地のエネルギーをヨガで伝え、アートの表現している。2016 年から現在まで、毎年秋に国際アートフェスティバル「美咲芸術世界」を夫婦で主催。

10月
26日（土）
二上山岡山寺



美 咲 森 芸 展
Exhibition

柵原地域で「美咲森芸展」と題した作品展示を行った。また、美咲町文化連合会との連携により、柵原・旭・中央地域の文化祭でも作品展示を行った。

北和気郷土資料館 美咲森芸展

■ 開催場所：北和気郷土資料館（美咲町百々417-1）

■ 開催日時：2024年9月12日(木)～11月17日(日) 10時～15時

〈プログラム〉

会期中、さをり織り展(阿部みつ子)、藍染め展(梅川知子)、切り紙展(加藤孝子・山本裕・山本千代子)の4会場の展示会を行った。(参加者数 765 人)



阿部みつ子をさをり織り 50 周年展



藍染めと絵ことば・手すざ和紙展



切り紙展 ハチドリのはたとしすく



刻書展 一期一会の三人展

柵原文化協会 やなはら文化祭
美咲森芸展

■ 開催場所：柵原総合文化センター（美咲町々木200-8）

■ 開催日時：2024年11月1日(金)～11月3日(日)

「やなはら文化祭」と連携し、展示スペースの一部に仮面作家岩本雄基と美咲芸術世界の作品展示を行った。(参加者数870人)



中央文化協会 ちゅうおう文化祭
美咲森芸展

■ 開催場所：中央公民館（美咲町原田3100-1）

■ 開催日時：2024年11月30日(土)～12月1日(日)

会期後の特別企画で「ちゅうおう文化祭」と連携し、美咲森芸展を行った。



柵原図書館 美咲森芸展

■ 開催場所：美咲町立柵原図書館（美咲町書割180-1）

■ 開催日時：2024年11月9日(土)～11月24日(日) 10時～18時

〈プログラム〉

美咲町柵原地域出身の現代アーティスト福井一尊と柵原地域の保育園児たちのコラボレーション作品を展示した。(参加者数 148 人)



鏡やガラス球に園児の作品が映り込むコラボ作品



伝 統 文 化
Traditional Culture

竹内流古武道史跡巡り

■ 開催場所：三宮八幡神社（美咲町西井和1）

■ 開催日時：2024年11月16日(土) 10時～15時

〈プログラム〉

竹内流古武道史跡保存会がスタッフとなり、竹内流開眼の地として伝わる三宮八幡神社でのトークイベントを行った後、史跡マップをもとに一ノ瀬城跡、竹内流発祥の地を巡った。その他、旭地域の子どもたちが地元小山の柵田米おにぎり販売を行った。事前準備として史跡看板の設置も行った。(参加者数 65 人)



竹内流開眼の地、三宮八幡神社でのトークイベント



三宮八幡神社・一ノ瀬城跡には案内看板が設置された



竹内流発祥の地、建部道場を見学

岸田吟香&ジョセフ・ヒコ展

■ 開催場所：美咲町旭文化会館（岸田吟香記念館）（美咲町西川1001-7）

■ 開催日時：2024年11月23日(土)～11月24日(日) 10時～16時

〈プログラム〉

岸田吟香を語り継ぐ会主催のトークイベントと岸田吟香にゆかりのある画家布下満、高木巧治寄贈作品を展示した。旭地域の子どもたちと美作大学の学生による発表会も行った。(参加者数 330 人)



岸田吟香&ジョセフ・ヒコ展



画家布下満が美咲町に寄贈した作品「植える人」



岸田劉生の弟子加賀孝一郎の作品（高木巧治寄贈）

竹内流史跡マップ
「井和郷史跡巡礼の旅」



三宮八幡神社



旭地域の子どもたちが地元小山産
柵田米おにぎりをPR



美咲町旭文化会館（岸田吟香記念館）

Mitsuru Nunosita
布下満



プロフィール：
画家。1937 年大阪市生まれ、元
姐は岸田。岸田吟香の才能伝承の
ひ孫にあたる。岡山大学教育学部
（特）卒業後、中学校・短大で美
術教師を務める傍ら画家としても
活躍。1963 年日展初出品（ひ通）
以来、岡山県展、日展、行動美術
展等に出品。多くの賞に輝く。1987 年～おやま社会保
障センターカルチャー講座で形面講座。画集「NUNOSITA
MITSURU2001 ～2019」、画集「2000 年展を置いて
40 年あゝ」と出版。旧美作市格致中学校教諭当時設置し
た夕焼けの像は生徒と合同作品。総社市在住。

Koji Takagi
高木巧治



プロフィール：
1959 年岡山県生まれ、美術師
及家、版画家、洋画家、画風、日本
美術教育学会会員（日本美術会
協賛）、美術研究団体（全国造形
教育連盟会員（美術師部会）、絵
画コンクラー。全国結集・あーど
わの会 理事。1989 年 から
2024 年まで美術普及活動に専念、高木巧治コラジ
を公立美術館に無償貸与し、美術館経営活動の展開
での活動が全国展開し、公立美術館経営（2000）の中核
を文化庁に提言、文化庁より「美術館をえる人」とし
て認知される。2017 年に公立美術館に寄贈し、施設運営
費、他寄贈活動推進。

青木正文氏を迎え、岸田吟香まつわる講演会が行われた

森の芸術祭 晴れの国・岡山とは？

会期:2024年9月28日(土)~11月24日(日)



森の芸術祭
FRIENDS
PROGRAM

「森の芸術祭 晴れの国・岡山」は、12市町村(津山市、高梁市、新見市、美作市、新庄村、鏡野町、勝央町、奈義町、西粟倉村、久米南町、美咲町)をエリアとするプロジェクトです。

このエリアは、山陽と山陰を分ける中国山地から吉備高原にかけて広がり、中国山地を水源とする三大河川(吉井川・旭川・高梁川)の上流域にあたります。緑豊かで雄大な自然、旧街道沿いの宿場町や城下町、水運の拠点として栄えた歴史ある街並み、優れた泉質の美作三湯(湯郷温泉・奥津温泉・湯原温泉)など、県南部の瀬戸内海沿岸とは異なる風景と魅力的な地域資源を数多く有しています。

新たな切り口で地域の魅力を引き出し非日常の特別な体験を提供するアート作品の展示や関連イベントの開催などを行うことで、芸術祭を核とした周遊型の観光振興や交流人口の拡大、シビックプライドの醸成を図ります。



「森の芸術祭 晴れの国・岡山」ポスター



大井和みどりの少年隊の発表「植樹祭頑張りました!」



中央小学校 3 年生のアマンジャク史跡ツアー



美咲森芸 2024



会期:2024年9月29日(日)~11月24日(日)

「森の芸術祭 晴れの国・岡山」を契機とし、美咲町の文化芸術祭「美咲森芸2024」を開催。町内の文化的なつながりを育み、町の文化を盛り上げることを目的として、町内の文化芸術、農林業、教育、福祉などさまざまな分野の団体が連携して町ににぎわいを創出し、地域資源を活かした文化芸術振興に資する地域づくりに貢献することができた。

また、現在町の課題となっている文化財の保護やふるさとの環境保全について、新しい世代が目玉しているアートという視点から改めて見つめ直し、町の文化芸術を未来の子どもたちにつなげたいという想いを込め、テーマを「美咲の森をこどもたちにつなげよう」とし、課題解決の糸口を探った。

美咲森芸2024の成果

◎子どもたちとの共創◎

町内小学校や保育園との連携により、文化発表会などの場で地域の文化資源を取りあげるなどの効果が出た。それは地域の大人たちにも波及し、史跡の荒廃、担い手不足、環境保全などに対する意識の高まりや、持続可能な社会を目指す機運の醸成につながった。

◎地域住民による町内施設の活用促進◎

新しく開かれた公共施設である美咲町生涯学習センターで、地域住民と様々な団体がいベントを共創し、アート展示、映画上映、ワークショップ、キッズスペースなど施設の多様な使い方を示したことは住民による公共施設の活用促進につながった。

◎町内の文化的つながりや一体感の醸成◎

実行委員会の立ち上げ以降、月1回のペースで実行委員会を実施。ライングループやインスタグラムを活用して、関係者全員で情報を共有しながら進めてきたため、一体感が生まれた。



<美咲森芸の今後に向けて>

地域の文化財の保護やふるさとの環境保全、子どもたちへの継承、持続可能な社会の実現に向けては、本事業が一過性のイベントで終わることなく、今後もしかりに持続していけるかが鍵である。本事業を通して得た経験をどう活かしていくのか、実行委員会や地域と議論を重ねていきたい。

～美咲の森をこどもたちにつなげよう～

令和6年5月、地域おこし協力隊の基地ミサキアエルで美咲森芸2024実行委員会が産声を上げた。コロナ禍で自粛に追いやられた町の文化芸術を取り戻そう。文化の灯りを明日の夢に…(美咲町民憲章の一節)。

さあ、美咲の森で文化芸術の祭りをしよう！ 美咲の森を子どもたちにつなげよう！

昔からお祭りはこの町にとって重要な役割を果たしていた。この町に住む人々のつながりを育む大切な行事だった。一人ひとりが太鼓や笛や舞など、それぞれが自分の役割を演じ、みんなで一体感を体験する場であった。それが出合いの場であり、自分を表現する場であり、先人の知恵を受け継ぐ場であった。

美咲の森の中で、私たちは育った。だから、これからも私たちは美しく咲くこの森を次の世代に伝えていきたい。そんな声が、美咲の森の中でこだましていた。

美咲芸術世界 企画監修 楽画鬼



【主催】美咲森芸2024実行委員会

【後援】美作県民局 美咲町 美咲町教育委員会

【助成】令和6年度美作国創生公募提案事業

【協力】美咲町文化連合会 美咲町社会福祉協議会 久米郡森林組合 久米郡商工会 美咲町棚田保存地区連絡協議会
NPO法人ファームリーリングあゆむ 美作大学 岡山県立大学 ノートルダム清心女子大学

【美咲森芸2024実行委員会・美咲芸術世界実行委員会事務局】

〒709-3726岡山県久米郡美咲町大井和西1024-7 TEL:080-1392-5917



MISAKIMORIGEI